

令和2年度次世代国産花き産業確立推進事業
高品質化生産技術等の導入実証試験報告書
(戦略品目：ハナモモ、サクラ)

品質評価試験結果報告

JF 鶴見花き
担当：岩野秀子

1. 実施条件

場 所：JF 鶴見花き 品質検査室
品 目：啓翁桜（能勢町産）
花桃「矢口」（豊中市産）

ふかし処理：美咲ファームによるふかし（生産地慣行）

試 験 区：出荷前の STS 処理の有無
観賞時の美咲処理の有無
計 4 区

品質検査室の条件：温度 25℃、照度 1000lux

※温度はエアコンの不調により 23℃より低く推移

試験開始日：令和 3 年 2 月 5 日

試験終了日：令和 3 年 2 月 16 日

方 法：大阪府内生産者が栽培した花桃「矢口」および啓翁桜を 23℃条件でふかし処理し、つぼみの着色が確認できた段階でなりゆき温度に移して STS を含む開花液に 3 日間生け、STS が十分に吸液されたものを品質検査室に搬入して品質評価を開始した。

2. 結 果

（1）花桃「矢口」

搬入時は多くのつぼみで発色・発達を確認できたが、その後つぼみはほとんど発達せず、徐々に色が青白くなり、最終的にどの区も開花しなかった。試験区の違いによるつぼみの差も判然としなかった（写真 1）。試験開始 6 日後に蕾のしおれが確認できたことから試験を終了した。

（2）啓翁桜

搬入後は正常に開花が進んだ。10 日後の調査において、STS なし美咲なし区は 70%の花が著しくしおれていた。これに対し STS あり美咲なし区では花のしおれが遅れ、10 日後の調査での萎れは 10%程度であった。STS なし美咲あり区での花のしおれは 30%、STS あり美咲あり区では 30%であり、どの処理も効果が認められたが、観賞期間の延長はわずかであった（写真 2）。

(3) 考察

これまでの大阪府立環境農林水産総合研究所での試験結果をもとに、花桃矢口および啓翁桜について、STS 処理による日持ち性向上のための実証試験を行った。その結果、今回の試験では、花桃矢口では STS による日持ち性の向上は見られず、啓翁桜でのその効果はわずかであった。このため、生産者出荷段階で STS 処理を行うことについては、効果が見られないまたはわずかであり、処理として有益ではないと考えられる。啓翁桜については、どのような処理でも比較的容易に開花したが、花桃「矢口」については、本試験でも見られたとおり、何らかの要因で全く開花しなくなることがあり、輸送や保管方法などさらなる検討が必要である。



左：STS 処理／あり、生け水／美咲



右：STS 処理／なし、生け水／美咲

写真 1 花桃矢口における STS 処理の効果
どの処理も開花せず、効果は認められない。



左上：STS 処理／なし、生け水／水

右上：STS 処理／あり、生け水／水

左下：STS 処理／なし、生け水／美咲

右下：STS 処理／あり、生け水／美咲

写真2 花桃矢口における STS 処理の効果（効果なし）

わずかに左上の STS 処理／なし、生け水／水区で、花のしれが早かったが、明確な違いは示されなかった。